

平成30年10月5日（金）

先週行われた支部中学校新人総合体育大会では、野球部が準優勝、卓球部2名がシングルスで第3位の成績を収めました。部員数が少ないことに負けずに、新人戦で活躍する皆さんの姿から、都中生の大きな可能性を改めて感じました。また、部活動以外の場面でも、様々なことにチャレンジしている生徒が、新人戦において成長した姿を見せてくれたことを嬉しく思うとともに、確かな手応えを感じています。今後も、皆さんの経験値を上げることのできるチャンスを創っていきますので、ぜひ生かしてください。

4月から始まった前期という期間は、今日で終わりです。前期も皆さんには、「チャレンジすることから逃げないでほしい」ということを繰り返し伝えてきました。そのメッセージの意味を真摯に受け止め、困難なことにもチャレンジする生徒が増えてきたことは嬉しい限りです。そのようなチャレンジする姿勢が、中体連では、卓球部女子団体の県中大会出場、バレーボール部の2年連続県大会出場及び県大会1勝、支部駅伝大会男子5位入賞につながりました。また、全校生が一体となって合唱やダンスを創り上げ、灯まつりや商工祭、敬老会で発表し、地域の皆さんに喜んでいただいたこと、中学生がボランティアとして地域行事に貢献できたことは、本校の伝統となりつつあります。ふるさとを大切に思う気持ちをこれからも大切にしてください。

学習面では、授業や学習会、家庭学習にひたむきに取り組めることが皆さんの強みです。今後は、家庭学習の時間を毎日確実に確保し、自分に合った効果的な家庭学習のやり方を見つけて、目標を意識しながら取り組んでください。先生方も、学ぶ目的が分かる授業、知的なワクワク感・ドキドキ感が味わえる授業、確かな力が身に付く授業にできるよう努めていきます。

3年連続9度目のセリーグ優勝を決めた広島東洋カープの4番打者鈴木誠也選手は、次のように語っています。「昨年は4番としてとにかく成績を出さなくてはと、自分のことで精一杯でした。8月には右足首を骨折し、それ以降のシーズンを棒に振りました。今年はチームのためにと、やる気持ちが強い。そこで、失敗の仕方をもう1回考え直しました。迷って追い込まれて凡退するなら、自分のスイングをした後で感じる後悔の方がいいなと。そうすると、ちょっとずつ積極的になっていきました。また、広島カープに入団してから、本当の意味で『練習の大切さ』を感じるようになりました。昔はただやらされるだけだったけれど、ただやればいいことは練習とは言えない。広島カープの周りの選手は何が自分にとって必要か、自分の役割は何かを理解して練習しています。だから、自分も打撃のことを24時間考えるようになりました。移動の時も動画を見たり、打ち取られた球を思い出したりして、打てるようになるためのイメージトレーニングを始めました。試合が終わった後はベンチ裏で素振りをしてから、ロッカーに引き揚げるようにしています。崩されたフォームを直してから帰ろうと思うからです。地味だけど、大切だと思うからです。」



「迷って失敗するなら、思い切ってやって感じる後悔の方がいい」「ただやればいいことは、練習とは言えない」「24時間脳がちぎれるほど考え、『できる』と信じて地味な努力を継続する」といった鈴木選手の哲学は、皆さんのこれからのにも活用できるのではないのでしょうか。気付いたら即実行です。早い行動を起こすことで、より良い結果が生まれます。来週から始まる後期に、皆さんがまた一つ成長することを期待して、式辞といたします。